

山積する課題に全力で取り組む

第65回定期地方大会開催

全機関が組織に集中を



国労せんだい

No. 2592
2010年10月5日
発行責任者 橋本 昭二
編集責任者 武田 昌仙

地方本部は第65回定期地方大会を9月26・27日の両日、松島町大観荘において開催した。

大会では、JR不採用問題の全面解決（雇用確保）をはじめとして、労働条件改善、安全問題、組織強化拡大など諸課題について白熱した議論が行われ、運動方針など全議案を承認、決定した。

地方大会概況

大会二日目

大会は、中島副委員長の司会で始まり、代議員定数32名中28名の出席を確認して大会の成立を宣言。議長団には、議長・石塚（宮城）、副議長・大橋（福島）両代議員を選出した。



員の労災死傷事故、輸送障害が続発。

設備メンテナンス体制など大幅な業務委託化が推し進められ、加えて効率化と経費削減により、施工会社は十分な保安体制を作れる

橋本委員長あいさつ

組織と運動を次世代へ

▼JR不採用問題
裁判上での和解が成立し、採用差別事件としては解決。

だが不採用問題としては「雇用問題」が残されている。4者4団体の枠組みを土台に本部の判断や提起に基づき、全面解決に向け地方本部として全力をあげ取り組む。安全・安定輸送の確立。ス。コンプライアンスの遵守は社会的責任。実現

9・1 (団交申13号 設備職場の保安体制関連)
9・4・5 第54回国鉄のうたごえ祭典 in みやぎ
9・10 若松地区 JR不採用問題解決報告集会
9・11 第31回アスベスト対策委・第5回学習会
9・14 第12回執行委員会・闘争委員会

松井書記長あいさつ

東日本本部を代表しあいさつに立った松井書記長は、24回東大会での提起。出向問題。東本社では運転士・車掌を除く全ての職種で対象、外注化または導入されようとしているが、出向連が機能していない。出向の課題に対応するため改めて体制作りの提起をした。

▼昨年12月、首都圏グループ会社の再編で環境アクセスに集約されたが、東本社を介して出向会社が国労申に答えた。

には、健全な労使関係の確立が必要。

東日本・貨物どちらも一括和解以降も職場で差別感が払拭されていない。解消に向け東日本本部と共に、「仕事・安全総点検運動」を強化する。

組織強化・拡大。その

必要性を本大会で議論を。国労でいること自体が闘いであったが、和解と不採用問題の解決で大きく変化。国労の組織と運動を次世代に引き継ぐことが、今日までの国労運動の正しさを確かなものに

9・26・27 第65回地方大会
9・28 12月ダイヤ改正提案
9・28 設備・電気メンテナンス体制改善提案
9・28 「ダイヤ改正」及び「設備メンテナンス改善」合理化対策会議

▼今後、P会社とエリアの交渉の形態。複数支社跨りは本部・本社間。支社内のP会社は地本・支社間の扱いにする。会社から返答。

▼こうした経過から、JRバス東北の勤務問題等について、バス会社所属の組合員を交えて東本社との団交を開催した。

▼二つ目は設備メンテナンスの改善提案。本部・本社間の交渉を終えたが、申9号では回答で悔しい思いをさせてしまった。反省し、業務対策委員会として地方の皆さんにも入ってもらおうことに。

▼三つ目は、労働条件に関する。組織の拡大は、私たち一人ひとりに与えられた使命。それを実践することが今日まで支援頂いた共闘の皆さんに運動で返すことに繋がる。

不採用問題が解決しても、国労の組織と運動がなくならぬ歴史的な闘いも過去のものに。その実現には他労組との違いを作ることではなく、「仕事・安全総点検運動」を基軸として、職場の活性化を進めること。

▼11春闘と4月の統一地方選挙。国労議員団全員が、今日までの国労運動の当選と革新勢力の躍進に奮闘を。

大会二日目

議事の冒頭、連帯する会

新地方委員

- 宮城県支部 (9名)
 - ▼昆野正則
 - ▼丸谷豊美
 - ▼舟濤修
 - ▼石塚和弘
 - ▼家子栄悦
- 福島県支部 (4名)
 - ▼吉田浩一
 - ▼加藤充彦
- 郡山工場支部 (1名)
 - ▼阿部政雄
- 仙台総合車両支部 (3名)
 - ▼鈴木英弘
 - ▼及川正昭
- 東北自動車支部 (1名)
 - ▼浅利功
- 山形県支部 (1名)
 - ▼土田聡

アスベスト問題に関する折衝

地方本部は「石綿の健康被害」に関する申し入れ(申31号・09・10・15)を行い、その後の交渉で会社は健康診断の追加受け付けの実施や除去状況など不明な点を明らかにすると回答した。

地方本部は8月10日、この内容の確認と、より具体的な情報を求めて「折衝」を行った。(組合側：大沼業務部長 佐藤勝法対部長)

これまでアスベストの対応をしてきた所について

組合：21箇所の建物に含有があり、20箇所の撤去をし、残りは仙台東という回答であったが、具体的箇所は会社：21箇所は21棟に訂正する。国の石綿規制が強化される毎、調査を実施している。

組合：措置しなければならぬ場所は。

会社：仙台東・仙台東車両センター・南小泉2号A・古川1号A。

撤去時期だが、仙台東は大規模改修時(いつになるかは不明)、仙台東車両センター・南小泉2号A・古川1号Aは天井に使用

新たなアスベストが見つかったA Pの対応について

※新たなアスベストとは、アクチノライト、アンソファイ

石綿特健を受診しよう!

新規はもちろん、「再受診」が可能になりました

「静かな時限爆弾」とも言われるアスベストによる被害(中皮腫、肺がん)は、JR退職者・現職を問わず年々増加の傾向にあり、「労災」による被害者が今後拡大する可能性が大きいとされています。

JR東日本仙台支社は、「石綿特殊健康診断希望者は、追加を受けており、当初受診しその後検診を取りやめた方も再受診可能としています。是非受診しましょう。

新庄1号A Pの現状と疑問点について

※新庄A Pの疑問点とは、1号A P屋上への出入り口内壁等にアスベスト使用の疑義と、室内の灯具から結露による水滴が落ちる現象があり、これにアスベスト含有の可能性があると指摘したもの。

組合：以前質問した疑問点について、これまで何の返答もないが。

会社：(屋上出入り口壁の写真を見て)これは色モルタルである。

組合：結露による灯具から検討することになる。

組合：浮遊粉塵の測定結果の開示は。

会社：国の大気汚染防止法での基準は、1リットル中10本以下。

※これまでの測定結果は1リットル中0.5本未満。従って開示する考えはない。

組合：実効性がない。居住箇所での測定が正確。

会社：条件は同じと認識している。迷惑のかららない場所での測定。アスベストのある場所は手の届かない箇所である。

組合：居住者で自宅の測定を希望する場合の対応は。

会社：出来ないことはない。

長期の支援に心から感謝 若松から報告

9月10日、全会津地区報告集会が、会津労働福祉会館において開催され、共闘の仲間と国労組合員約70名の仲間が参加した。

主催者を代表し、国労支援共闘協議の星好房議長は、「23年前、不当労働行為で首を切られた国労組合員に、これを許さず新会社採用させることを目的に、共闘会議を結成した。粘り強い闘いの結果、和解解決を勝ち取った。会津は解散するが、雇用・年金など全面解決まで交流活動を継続し支援する」と、最後まで支援を約束した。

また南会津地区、両沼地区、耶麻・喜多方地区の平和フォーラム代表と、社民党若松総支部からそれぞれあいさつが述べられた。

地方本部からは五十嵐書記長がこの間の支援に対するお礼と現在の情勢報告を行った。

また仙台東闘争団からは佐藤正則事務局長が参加し、物心両面にわたる厚い支援に対する感謝のお礼を述べた後、これまでの闘いの経過と雇用問題の解決に向けての決意が話された。

集会後の懇親会では、改めてこの間の支援に対し感謝をし、雇用問題の解決までしっかりと支えていくことを全体で確認した。【敬】



退職のお知らせ

8月31日

高橋 久樹さん
東北自動車

飯塚 健司さん
仙総組立

松川 秀利さん
仙石線駅連

斎藤 利男さん
仙台電車区

長い間お疲れ様でした